

1 研究主題

**「主体的・対話的で深い学びに迫る教育活動の創造」
～開発的生徒指導による学びに向かう集団づくりを目指して～**

2 主題設定の理由

○これまでの研究

令和2・3年度は、本校では、「自ら学び、基礎・基本が定着している生徒の育成」という主題のもと、生徒が自ら学ぶ授業をめざして実践研究を行ってきた。中でも研究授業・授業研究（反省）形態を全教職員が参画できる方法に変えて継続実践してきた。また、研究授業の目的を「授業者の指導技術向上のため」から（「参観者が生徒の学びの事実を見取ること」を通じて）「生徒の学びから教師が学ぶため」に変更した。

令和4・5年度は、平戸市指定の研究発表に対応するため、令和2・3年度の研究主題を変更し、「主体的・対話的で深い学びに迫る教育活動の創造 ～学びを豊かにする ICT 活用を通じて～」とした。

日常の教育活動の中で ICT 機器を積極的に活用するだけでなく、ICT 機器を活用することが生徒の学びや学力の向上などに、どのように生かすことができたかということの研究しようとするものである。そこで、各職員が大きく2つの部会（グループ）に分かれて研究をすすめた。

(1) ①**授業研究部会（観察グループ）**は、研究授業・授業研究の推進を基本に ICT 機器を活用した授業に特化した授業のあり方などの研究を推進した。

②**授業研究部会（ICT 観察グループ）**は、タブレット端末が生徒各自に貸与されたことにより、授業研究部会内のグループとして ICT 機器の有効活用を基本に様々な活動や研究を推進した。中でも、端末を活用した各種アンケートの実施やリモート機能を利用した集会や出席停止者に対するリモート授業の実施などを推進した。また、「T-1 グランプリ」と銘打ち、「ミライシード」を利用して週末の学習課題の配信を通じた家庭学習に対する意欲の向上への取組は特筆される活動だった。

(2) **環境・情報研究部会**は、教室内の掲示物（「学習のきまり」、「めあて」「まとめ」等のカード）を基本とした学習環境の整備や学習に対する姿勢づくり、「学ぶ力」アンケートの実施・結果考察を通して生徒の学びの実態を数値化する研究を推進した。また、従来取り組んできた「朝自習」を活用した学力向上への取組を変更して「朝読書」を推進した。1日の学校生活の始まりから静かに読書に取り組むことにより、学びに向かう姿勢づくりを養うことに努めた。

○〈資料①〉(研究発表会 研究紀要より)

・成果と課題…これまでの実践と客観的なデータから、以下の成果と課題を導いた。

1 成果

(1) 生徒の変容として

- 学ぶ力アンケート「**クロームブックを授業で使うことによって学習への意欲が高まりましたか**」の問いへの肯定的な回答の多さからも、T-1 グランプリをはじめとするクロームブック活用は、生徒の学習意欲を向上させることに効果的であった。
- 協働的な学びの場面で意見交換がしやすくなり、ICT 機器を介して話し合いをせざるを得ない環境が整い、自ずと話し合いが活発になった。

(2) 教師の変容として

- 研究授業に伴う授業研究を繰り返すことにより、多様な意見が出され、教師一人一人の ICT 活用に対する意識の高揚が見られた。授業だけではなく、学びの連続性を意識した T-1 をはじめとする家庭学習の取組強化の共通理解が得られた。
- 授業改善に関しては、単なる ICT 活用ではなく、NITS (独立行政法人教職員支援機構) の「主体的・対話的で深い学び」の視点から実現したい生徒の姿をピクトグラム入りの 19 指標をもとに追究するスタイルに変更したことにより、クロームブックをどう活用するのか、その目的や効果を意識するようになった。
- 可視化できることにより、個別最適な学びをサポートする活動で有効であった。学習評価に関しても有効で、成果物だけではなく、折々の考えも残るので、多様な評価につながった。

2 課題

(1) 生徒の今後の取組につなげることとして

- 自分の意見を持つことができた反面、他者に伝える自信がない生徒も多い。正解か否かではなく、意見を持つことを賞賛する雰囲気をつくり上げ、多様な意見が共存することを前提とした話し合い活動を推進させる必要がある。
- スプレッドシートを用いた振り返り入力やフォームを用いたアンケート回答を試みているが、手書きのほうが克明な記述が見られた。手書きのように活用できるよう、繰り返し使用させる。並行して、タイピング文字入力練習の定期的な取組も、再度、検討していく必要がある。

(2) 教師の今後の取組につなげることとして

- 協働的な学びに ICT 活用が活発になったが、もう一步踏み込み、根拠や理由をつけて考察する力がついておらず (中教審答申「令和の日本型学校」でも示されているとおり) デジタルとアナログの融合を念頭に、ICT を活用しつつも、日頃のあらゆる教育活動での意見交換の場で意図して高めていく必要がある。
- 授業については教師主導スタイルから脱却できていない。生徒主体のまとめ・振り返りなど、生徒が自主的にクロームブックを開く研究を今後も進めていく。

○生徒の実態

生徒は、「学習のきまり」の一つである「3分前行動」「2分前着席」「1分前黙想」が定着している。授業態度も良好で、落ち着いた学習活動が展開できている。積極的に挙手をして発表する姿も見られ、

家庭での学習習慣が身についている生徒も多い。一方で、授業中の立ち回り、学習用具や教材の忘れ物、家庭での自主学習への取組の差や学習習慣が身につけていない生徒がいるのも事実である。また、学力調査の結果から、文章を読み取る力や自分の意見を記述する力、思考力などが不足がちな点も見られることから、昨年度からの継続した研究課題も踏まえて、基礎学力の定着はもとより、家庭での学習にも力を入れなければならない。

○今年度の研究

昨年度からの研究主題を継続し、今年度も「主体的・対話的で深い学びに迫る教育活動の創造」とした。「学ぶ力」アンケートの結果から、昨年度の課題として、1分前着席など、授業に臨む姿勢や授業中の態度に大きな問題は見られないが、家庭での学習時間や宿題以外の自主学習への取組が低いことがあげられるなど、学びに向かう力が不足している。

そして、〈資料①〉に示したように、これまでの研究における成果と課題を踏まえて、さらに研究を進め、この研究を一過性のものに終わらせたくないよう、さらなる工夫をしていきたい。また、昨年度の反省から、職員の意見として「不登校」「別室登校の生徒への対応」について、当該学年だけではなく全職員で共通理解をする場をつくる必要があるのではないかと、また、「開発的生徒指導」、「自己有用感を高める指導」、「特別な支援を要する生徒への対応」、「発達障害に関する知識」などが現在の生徒に必要なのではないかととの振り返りもあった。また、特別な支援が必要な生徒については、学習活動での支援の一層の工夫を行うべく、ICTを活用して生徒の学習意欲を喚起することに力を入れたい。不登校生徒についても同様に、オンライン授業を併用するなど、学ぶ環境づくりを整えていく必要がある。

このようなことから、「基礎学力の充実」を基本に「各教科における授業改善」を進め、学習への取組や学習意欲の向上を図る研究を進める必要がある。また、現行の学習指導要領の基本理念を踏まえ「知識や技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びに向かう力、人間性の涵養」をめざして学習内容の「習得・定着・活用」に力を入れたい。指導では、思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を展開し、得た知識を活用できる力を育むなど、研究を進めたい。また、ユニバーサルデザインに基づいた、よりよい学習環境の整備と集団力の向上を目指し、掲示教育や開発的生徒指導を中心とした学習規律の共通実施も行う必要がある。それから、家庭と連携し、生活習慣や学習習慣、メディアコントロールの啓発にも努めていきたい。

以上のことから、主題の「主体的・対話的で深い学びに迫る教育活動の創造」に加えて、副題として、～開発的生徒指導による学びに向かう集団づくりを目指して～とした。

○研究内容

	研究項目	主な研究内容
(1)	各教科における授業改善	①生徒が主体的に取り組むことができる教材開発や授業形態の在り方 ②「学び合い」、協働的な学習活動への取組 ③「話すこと」「書くこと」の向上 ※研究授業の実施（全授業者が年1回行う）
(2)	ユニバーサルデザインに基づいた、よりよい学習環境と集団力の向上	①掲示教育の改善、教室や校舎内の掲示物の配置 ②どの生徒も活躍の場がある開発的生徒指導

		の研究 ③学習規律の共通実施および見直し ・3分前行動、2分前着席、1分前黙想、立腰
(3)	家庭と連携した基本的生活習慣の在り方	①早起き・早寝、食事などの生活習慣の確立 ②家庭での学習習慣の確立 ③メディアコントロール

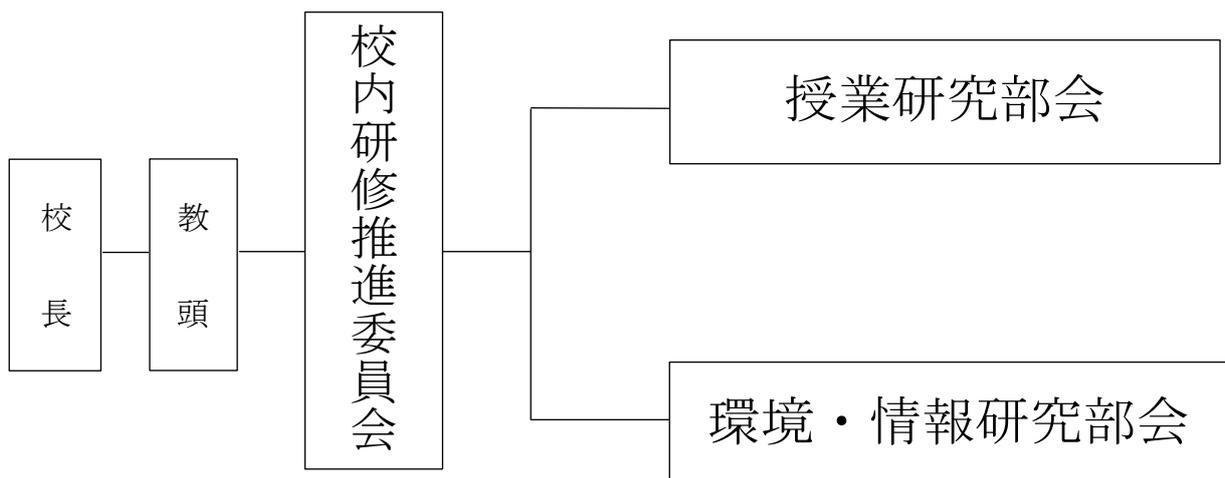
3 研究の仮説

〈仮説〉

生徒の学びの場面で、「学び合い」などの協働的な学習活動など、各教科における授業改善の成果を実践すれば、生徒の豊かな学びとなり、また、学校生活において「出番、役割、承認」をキーワードとする開発的生徒指導を推進すれば、生徒の学びに向かう力の育成を図ることができるであろう。

- (1) 「教科の壁」を払拭して全教職員で取り組む学習指導に関する実践を行うことにより「学力定着・向上」の土台となる読解力の向上はもちろん、学びに向かう力の向上も図ることができるであろう。
- (2) ユニバーサルデザインに基づいた学習環境の整備や、どの生徒も活躍の場がある開発的生徒指導の研究。
- (3) 家庭学習の取組、改善に向けた実践（自主学習ノートの課題のさせ方やタブレット端末の家庭持ち帰りでの効果的な学習方策などの実践）研究を行うことにより、学校外での学習の充実につながり、学びに向かう力の育成を図ることができるであろう。

4 研究組織および研究内容



◇「校内研修推進委員会」

【研究主任・校長・教頭・教務主任・各部（グループ）主担当】

・「校内研修」時間の内容、その他、関係懸案事項の検討

<二部会について> ◎リーダー・○部員

◆授業研究部会 ◎（川向）○（近藤）（城山）（西川）（山邊）（木村）

主体的・対話的で深い学びを追求する教育活動の研究。

- ・全教師（授業者）が年1回行う研究授業の計画
（主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の実践研究）
- ・授業研究の場を主導し、研究協議の進行方法の研究
- ・（主体的・対話的で深い学びにつながる）協働学習の提示
- ・講師招聘授業の企画運営
- ・ICT活用、特にタブレット端末活用を中心にした実践及び活用促進
- ・タブレット端末の家庭持ち帰りの有効活用方法の検討

◆環境・情報研究部会 ◎（柴山）○（鍛冶）（松尾梨）（北村）（長門）（森下）
（長嶋）（加藤）（田中）

生徒が互いに高め合い、学習に対して切磋琢磨できる環境を創造し、整備するための研究。

- ・ユニバーサルデザインに基づく教室内掲示物など学習環境の整備
- ・どの生徒も活躍の場がある開発的生徒指導の推進
- ・各種学力調査結果、学習状況調査結果の分析、善後策の策定
- ・本校独自「学ぶ力」アンケートの企画・運営
- ・朝読書の推進
- ・家庭と協力し、基本的な生活習慣及び家庭学習の習慣化の推進
- ・早寝・早起き・朝ご飯運動の実施
- ・「メディア・コントロール・チャレンジ」の実施

5 年間計画

月	研 修 項 目・内 容
4	○運営委員会（今年度の研究主題・研究内容の検討）
5	○推進委員会（本年度の具体的な研究計画の検討）
6	○推進委員会（本年度の具体的な研究計画の検討） ○校内研修計画確認（全体、2部会に分かれて） ○校内研修計画確認および活動（2部会）
7	○活動の確認・反省（2部会） ○「学習（学ぶ力）アンケート」実態調査（第1回）
8	○1学期の成果と課題 ○各種研修会の伝達講習
9	○校内研修計画確認（2部会） ○研究授業・授業研究
10	○各種研修会の伝達研修 ○研究授業・授業研究
11	○研究授業・授業研究
12	○校内研修計画確認（2部会） ○「学習（学ぶ力）アンケート」実態調査（第2回） ○研究授業・授業研究
1	○校内研修計画確認（2部会） ○研究授業・授業研究
2	○校内研修のまとめ（2部会） ○研究授業・授業研究 ○「学習（学ぶ力）アンケート」実態調査（第3回）
3	○各教科・各領域の年間のまとめ（成果と課題） ○研修のまとめ 来年度の方向性について

【学校教育目標】

「認め合い 学び合い、高め合う 生徒の育成」



【研究主題】

「主体的・対話的で深い学びに迫る教育活動の創造」

～開発的生徒指導による学びに向かう集団づくりを目指して～



【目指す生徒の姿】

- 互いに認め合う生徒（個性を認める）
- 共に学び合う生徒（他者と協働し、課題を解決する）
- 心身を高め合う生徒（体力の向上に励む）



【授業改善、開発的生徒指導の推進】

- 各教科による、授業改善や協働的学習活動の推進
- 情報活用能力の育成
- 開発的生徒指導に基づいた環境整備、生徒の実態把握